

学則変更の趣旨等を記載した書類

目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性	2
2-1. 社会的要請を踏まえた定員変更の必要性.....	2
2-2. 教育研究上の目的	4
2-3. 就職状況	5
2-4. 入学状況	6
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容.....	9
3-1. 教育課程の変更内容	9
3-2. 教育方法及び履修指導方法の変更内容.....	10
3-3. 教員組織の変更内容	10
3-4. 施設・設備の変更内容	11

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

本学理工学部では、令和 7 年度に改組を行い 1 学科（理工学科）体制となり、情報系分野である改組前の理工学部システム創成工学科知能・メディア情報コースは、知能情報コースとクリエイティブ情報コースとなった。理工学部では令和 7 年度より、各学生は、1 年次はクラスに所属し、2 年次よりコースに配属される形をとっている。令和 9 年度より、理工学部理工学科知能情報コース及びクリエイティブ情報コースの 2 コースに対応する「情報系クラス」の入学定員を、女子枠 5 名を含め 10 名増員とする。

学科名	入学定員		収容定員	
	変更前	変更後	変更前	変更後
理工学科	414 (20)	<u>424</u> (20)	1696	1736
化学クラス	《60》	《60》		
数理・物理クラス	《30》	《30》		
材料科学クラス	《45》	《45》		
情報系クラス (知能情報コース、クリエイティブ情報コース)	《60》	<u>《70》</u>		
電気電子・情報通信クラス	《59》	《59》		
機械知能航空クラス	《78》	《78》		
社会基盤・環境工学クラス	《63》	《63》		
データサイエンス応用オープンクラス	《14》	《14》		

※1 入学定員の () 内は編入学定員で外数

※2 入学定員の 《》 はコース定員で、学科の入学定員の内数

※3 情報系クラス変更後 70 名は女子枠 5 名を含む

※4 電気電子・情報通信クラスと機械知能航空クラスは両クラスにまたがる地域協創ものづくりプログラム 5 名分を除いて記載

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

2-1. 社会的要請を踏まえた定員変更の必要性

経済産業省が平成 30 年に行った理工系人材需給状況に関する調査では、企業が必要とする人材及び学び直しのニーズとして、ハード・ソフト、プログラム系、通信、ネットワーク、セキュリティ系、データベース・検索系、統計、オペレーションズ・リサーチ、高性能計算系、WEB コンピューティングを学んだ人材や分野が挙げられている。【資料 1】また、本学も参画する「いわて DX 推進連携会議」が令和 3 年に実施した岩手のデジタル化に関する調査では、回答した県内企業のうち約 65%がデジタル人材の不足を挙げている。【資料 2】帝国データバンクが行った令和 4 年の調査でも、DX に取り組む上での課題として、回答企業のうち 5 割程度の企業が対応できる人材不足を挙げている。【資料 3】最新の経済産業省の推計（「2040 年の就業構造推計（改訂版）の概要」）では、2040 年には、多くの産業において AI・ロボット等利活用人材が約 340 万人不足し、

国全体でも職種や学歴による需給ミスマッチが深刻化する可能性が示されている。さらに、生成 AI・ロボット等の進展が加速する場合は、「AI・ロボット等利活用人材の需要がさらに増加する可能性がある」と分析されている。【資料 4】岩手大学が位置する岩手県では「いわて県民計画（2019～2028）」を定めており、その中では「地域に貢献する人材の育成」を推進するとし、「各分野の人材育成・確保」として「情報通信技術（ICT）科学技術を担う人材」が掲げられている。【資料 5】いわて高等教育地域連携プラットフォームが県内事業所向けに行ったアンケート「令和 4 年度高等教育人材の教育及び県内定着促進に関するアンケート調査報告書」によると、「大学等高等教育機関卒業者に期待する資質、能力、知識について」という質問項目に対して「数理・データサイエンス・AI・IT に関する専門知識」への期待度が「非常に期待している」「やや期待している」をあわせて 64.9%、「大学等高等教育機関に求める教育プログラムについて」への期待度は「数理・データサイエンス・AI・IT 教育」が「非常に期待している」「やや期待している」をあわせて 59.6% となっており、岩手県内の事業所は県内の高等教育機関が情報系の教育プログラムを行うことや、卒業生に情報系の資質・能力・知識を身に付けさせることについて、高い期待を寄せていることが分かる。【資料 6】岩手大学を対象に絞ってみても、県内外の企業や県内自治体に対して行った「地域社会における岩手大学の役割等に関するアンケート調査業務報告書」によれば岩手大学との連携を望む取組みについての調査結果で、「DX、IoT・AI 活用等の職場内のデジタル化に向けての推進に関する連携」が「強く希望する」「やや希望する」をあわせて 57.5% となっており、こちらも同様の傾向を示している。【資料 7】産業界や多くの企業が、DX や ICT 利活用等に取り組むための情報系人手不足を課題としていることから、地域社会や我が国全体において、社会における情報系人材のニーズが存在すると言える。

理工学部の知能情報コース及びクリエイティブ情報コースでは、コンピュータハードウェア・ソフトウェアに関する教育を行っているが、両コース及び両コースの多くの学生が内部進学する大学院総合科学研究科理工学専攻知能情報コース、デザイン・メディア情報コースの学生の就職先企業からも情報系人材の不足を指摘する声が多く寄せられており、情報技術の基礎理論を理解し、実際の課題に応用できる人材の育成が必要となっている。

加えて、理工学部においては、依然として女子学生の割合が 17.3%にとどまり、特に、クリエイティブ情報コースの前身コースとなる知能・メディア情報コースの女子学生の割合は 14.3%で顕著に低い水準にある。知能・メディア情報コースには、毎年約 270 社を超える企業から求人が寄せられ、その多くが女子学生を含む推薦枠の設定を希望していた。しかし、当該コースの女子学生数はわずか数名にとどまり、社会的要請に十分応える体制とはいいがたかった。このような状況を改善し、情報系女性人材の育成を体系的に進めるためには、入学段階から女子学生の受け入れを促進する仕組みの整備が必要である。特に、情報デザイン等の創造的思考を重視するクリエイティブ情報コースでは、女性の関心や、女性活躍に対する社会的要請に即した教育分野を多く含むことから、同コースにおいて女子枠を新設する。受験生の少子化が始まった 2000 年前後に、全国の芸術大学や美術大学（以降、芸大美術大）は女子が急激に増加しており、本学の芸術分野においても女子学生の割合は 91.9%と高くなっている。また、日本デザイン学会の創造性研究部会や東北支部会においても、芸術大学や美術大学の女子の増加傾向について議論をし、特に情報デザイン系は、社会的なニーズに伴い今後も増加すると考察しており、女性視点でのデザイン

や創造性思考に関する教育の重要性は学会でも常に議論されている。当該分野の教育を担うクリエイティブ情報コースでは、情報デザイン分野の教員を新たに迎え、女性の関心や社会的ニーズに答えられる教育体制を強化していく。これにより、女性人材に対する社会的要請に的確に対応するとともに、同コースを志望する女性がより学びやすい環境が整いつつある。このため、同コースに女子枠を新設し、教育環境におけるジェンダーバランスの改善と、社会における女性に活躍に寄与する教育体制を整備する。

また、理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースは、令和5年に本学に進学実績のある近隣の高校生約2300名に対して改組後の志望コースを調査した結果では、両コースに対し約200名が第一志望(募集人員の3.35倍、女子約17%)と回答している。以上のように、両コースとも高い志願倍率となっていることから、地域や社会のニーズに応え、情報技術やデザインの知識を駆使してDXやICTの利活用できる人材教育を展開する。

2-2. 教育研究上の目的

理工学部では、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材の育成を行う。理工学部共通の人材育成像は以下の通りである。

1. 確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことのできる人材
2. 国際社会や地域社会が直面している課題を正しく理解し、持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学※」の理念を実践できる人材

※安全安心で、持続可能な社会の構築を考えていく理工学のあり方。エイモリー・ロビンズが提唱した「ソフト・エネルギー・パス」の理念を本学が理工学全般に拡張し、標語として用いてきたもの

とくに、知能情報コース及びクリエイティブ情報コースでは以下の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、それぞれ次の能力を有する人材を育成する。

【知能情報コース】

人工知能の基礎と応用、データサイエンス、ネットワーク技術などのコンピュータ・サイエンスに関わる知識を有し、これらを活用して実社会の問題を解決できる人材

【クリエイティブ情報コース】

情報デザイン、ヒューマンインタフェース、コンピュータグラフィックスなどに関わる知識を有し、創造的思考と情報技術を用いて実社会の問題を解決できる人材

<学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

【知能情報コース】【クリエイティブ情報コース】

高度化する情報化社会の動向を適切に把握できる教養と、コンピュータ・サイエンスに関する専門知識を有し、様々な応用分野で情報技術を駆使するために必要な専門コースが求め

る能力を身につけた者に「学士（情報学）」の学位を授与する。

加えて、女子枠での選抜を経て入学した学生に対しては以下の人材育成像に基づき、多様性のある人材を輩出する。

女性が職業生活において活躍できるよう、社会の多様性を尊重しつつ学術、産業、教育などの分野において自律的で能動的に行動できる研究者、技術者、教育者となるため、性の別を問わず科学・技術に関する資質・能力を備えた人材となって活躍することを求める。

2-3. 就職状況

知能情報コース及びクリエイティブ情報コースの前身となる知能・メディア情報コースの学生の多くは本学大学院総合科学研究科理工学専攻の知能情報コース及びデザイン・メディア工学コースへと内部進学している。過去5年間の内部進学率を表1に示す。近年、内部進学者の割合は増加傾向にあり、卒業者のうちの50%程度が内部進学している。その他の卒業生は一般企業等へ就職する。知能・メディア情報コース卒業後、並びに大学院知能情報コース及びデザイン・メディア工学コース修了後の主な就職先を表2に示す。多くの卒業・修了生が情報・通信業に就職している。

今回の計画では入学定員を10名増とする。また、理工学部では、令和7年度より、2年進級時に自らの希望でコースを決定できる「データサイエンス応用オープンクラス」を新設した。データサイエンス応用オープンクラスの令和7年度入学者に関しては、14名中11名が情報系コースを希望して、配属された。令和8年度入学者に関しては、まだ配属は行われていないが、現時点では、13名の入学者全員が情報系コースを志望している。前述の定員10名増と合わせると、合計で20名程度の学生増となる見込みである。一方、知能・メディア情報コースには、毎年270社を超える企業から求人が寄せられており、定員増のあとも十分な就職先が確保できる見込みである。

表1：過去5年間の卒業生数、内部進学者数、内部進学者の割合

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
卒業生(人)	64	57	58	65	55	62
内部進学者数(人)	27	24	29	32	28	27
内部進学者の割合(%)	42.1	42.1	50.0	49.2	50.9	43.5

表2：卒業・修了後の主な就職先企業

業種	企業名
建設業	清水建設（株）
食料品	アサヒビール（株）

電気機器	キヤノン（株）、セイコーエプソン（株）、東京エレクトロン（株）、日本電気（株）
情報・通信業	（株）ACCESS、NEC ソリューションイノベータ（株）、（株）NTT データ MSE、NTT テクノクロス（株）、（株）コーエーテクモホールディングス、（株）ソフトクリエイトホールディングス、ソフトバンク（株）、東芝デジタルソリューションズ（株）、日鉄ソリューションズ東（株）、（株）日立システムズ、（株）日立ソリューションズ
運輸業	東日本旅客鉄道（株）、北海道旅客鉄道（株）
銀行業・保険業	七十七銀行、東京海上日動あんしん生命保険（株）
サービス業	チームラボ（株）
公務	盛岡市役所

2-4. 入学状況

理工学部・理工学科では、アドミッション・ポリシーを以下の通り定めている。

【知識・技能】

- 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、より広い教養と深い専門性を身に付けたいという意欲をもつ人
- 理工学分野の専門の学修を始めるのに必要な知識と技能を獲得している人

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- 修得した知識と技能を組み合わせ、論理的な思考に基づく適切な判断ができるとともに、それを適切に他者に表現することができる人

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）】

- 自らが選択する専門分野の学修に、主体的に取り組もうとする人
- 大学での学びのなかで、広く社会との関わりに関心を持ち、積極的に多様な人々と協働しようとする人

とくに、理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースにおいては、上記のアドミッション・ポリシーに加えて、情報学分野に強い関心を持ち、情報技術について学んだことを主体的に活用しようとする人材を求めている。

女子枠においては、女性が職業生活において活躍できるよう、社会の多様性を尊重しつつ、主体性を持って学内の多様な人々と協働する学びを行い、性の別によらず科学・技術を学ぶための次の資質・能力を発揮するような人材を求める。

（知識・技能）

- 高等学校卒業にふさわしい一般基礎学力を修得しているとともに、情報デザインに強い関心をもつ人

（思考力・判断力・表現力等の能力）

- 修得した知識と技能を組み合わせ、創造的な思考・判断ができるとともに、それを他者に表現することができる人
(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (主体性・多様性・協働性))
- 情報や情報技術について学んだことを主体的に活用しようとする人
- 多様な価値観を理解し、様々な分野の人と協働しようとする人

また、過去6年間の入学志願者等の状況は表3の通りである。令和2年度から8年度の平均志願倍率は3.4であり、高い志願倍率を維持していることから、十分に学生が確保できる見込みである。

表3：知能・メディア情報コース（令和2～6年）および情報系クラス（知能情報コース、クリエイティブ情報コース）（令和7～8年度）における志願倍率および入学定員充足率（入試年度）

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
前期日程	入学定員(人)	35	35	35	35	35	35	35
	志願者数(人)	58	65	85	57	64	50	132
	志願倍率(倍)	1.7	1.9	2.4	1.6	1.8	1.4	3.8
	受験者数(人)	58	64	85	55	63	47	126
	合格者数(人)	39	38	41	42	51	45	35
	辞退者数(人)	1	0	0	0	2	1	0
	入学者数(人)	38	38	41	42	49	44	35
	入学定員充足率(%)	109	109	117	120	140	126	100
後期日程	入学定員(人)	12	12	12	12	12	12	12
	志願者数(人)	73	70	87	47	71	72	96
	志願倍率(倍)	6.1	5.8	7.3	3.9	5.9	6	8
	受験者数(人)	25	25	36	12	26	25	48
	合格者数(人)	17	16	13	10	13	13	12
	辞退者数(人)	2	1	2	3	5	0	1
	入学者数(人)	15	15	11	7	8	13	11
	入学定員充足率(%)	125	125	92	58	67	108	92

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
学校推薦型選抜	入学定員(人)	8	8	8	8	8	8	8
	志願者数(人)	32	37	32	27	31	36	27
	志願倍率(倍)	4.0	4.6	4.0	3.4	3.9	4.5	3.4
	受験者数(人)	32	37	32	27	31	36	27
	合格者数(人)	9	8	9	8	9	8	8
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0	0	0
	入学者数(人)	9	8	9	8	9	8	8
	入学定員充足率(%)	113	100	113	100	113	100	100
総合型選抜Ⅰ	入学定員(人)	－	－	－	－	－		
	志願者数(人)	5	3	7	6	1		
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－		
	受験者数(人)	5	3	7	6	1		
	合格者数(人)	2	2	2	2	1		
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0		
	入学者数(人)	2	2	2	2	1		
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－		
総合型選抜Ⅱ	入学定員(人)	－	－	－	－	－	5	5
	志願者数(人)	1	1	0	0	0	5	5
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－	1.0	1.0
	受験者数(人)	1	1	0	0	0	5	5
	合格者数(人)	0	0	0	0	0	5	5
	辞退者数(人)	0	0	0	0	0	0	0
	入学者数(人)	0	0	0	0	0	5	5
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－	100	100
私費外国人選抜	入学定員(人)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名
	志願者数(人)	16	13	10	13	6	11	11
	志願倍率(倍)	－	－	－	－	－	－	－
	受験者数(人)	14	7	7	13	6	9	11
	合格者数(人)	0	1	1	1	0	0	0
	辞退者数(人)	0	1	1	1	0	0	0
	入学者数(人)	0	0	0	0	0	0	0
	入学定員充足率(%)	－	－	－	－	－	－	－

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	平均
合 計	入学定員(人)	55	55	55	55	55	60	60	
	志願者数(人)	185	189	221	150	173	174	271	
	志願倍率(倍)	3.4	3.4	4.0	2.7	3.1	2.9	4.5	3.4
	受験者数(人)	135	137	167	113	126	122	217	
	合格者数(人)	67	65	66	63	74	71	60	
	辞退者数(人)	3	2	3	4	7	1	1	
	入学者数(人)	64	63	63	59	67	70	59	
	女子数(内数)	8	13	8	9	6	9	11	
	女子比率(%)	12.5	20.6	12.7	15.3	9.0	12.9	18.6	
	入学定員充足率(%)	116	115	115	107	122	117	98	113

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

3-1. 教育課程の変更内容

理工学部知能情報コース及びクリエイティブ情報コースにおいては、従来のコンピュータハードウェア・ソフトウェアに関する教育に加えて、情報デザイン・空間情報処理分野及びデータサイエンス・AI 基盤分野を強化したカリキュラムを提供する。

1 年次には、2 年次以降にデータサイエンス・AI を中心に情報学全体を学ぶ準備をするための入門科目を配置する。具体的には、情報学全体を俯瞰するための科目として「情報学入門」を配置する。加えて、データサイエンス・AI の基礎的な知識を習得させるために「数理・データサイエンス基礎及び演習」、「AI 基礎および演習」を配置する。

2 年次以降は、知能情報コース・クリエイティブ情報コースに分かれて教育を行う。知能情報コースの教員が中心となり、データサイエンス・AI の知識を強化するための科目として「AI プログラミング言語」、「AI・データサイエンス実践演習 I・II」を開講する。また、クリエイティブ情報コースの教員が中心となり、情報技術とデザイン思考との融合科目として「情報デザイン I、II」、「創造デザイン I、II」、「空間情報構築基礎」及び「XR 基礎」を開講する。知能情報コース及びクリエイティブ情報コースの一体運営により、各コースの学生が両コースの科目を履修可能となり、情報技術に対する深い知識とそれを基盤とするデザインスキルの向上といった観点において、情報学全体を俯瞰できる人材を育成する。

また、実務経験のある教員等による授業科目を配置する。複数の実務家教員により、習得する知識がプロジェクト管理やソフト開発にどのように活用されるかを踏まえた、ソフトウェア開発手法などの研究・開発に関連する内容を講義する「情報職業論」を開講する。加えて、システムマネジメント等の実務経験を有する教員が担当する「人工知能」、「ロボティクス」及び「創造デザイン I、II」といった科目を開講・配置し、実務情報経験を踏まえた講義を行うことにより、実践的な製品開発手法に関する能力の向上を図る。

3-2. 教育方法及履修指導方法の変更内容

情報系 2 コースは、知能情報コースとクリエイティブ情報コースの 2 つのコースで構成され、情報学全体を俯瞰できる人材を輩出するために、両コースの特徴を持たせつつ、2 コースの一体的な運営により幅広い学びを可能にさせる。

従来のコンピュータ・サイエンスに関する科目に加えて、知能情報コースの教員が中心となり、データサイエンス・AI の知識を強化するための科目として「AI プログラミング言語」、「AI・データサイエンス実践演習 I・II」を開講する。また、クリエイティブ情報コースの教員が中心となり、情報技術とデザイン思考との融合科目として「情報デザイン I、II」、「創造デザイン I、II」、「空間情報構築基礎」及び「XR 基礎」を開講する。

さらに、実務経験のある教員等によって、「人工知能」、「ロボティクス」及び「創造デザイン I、II」といった科目を開講・配置し、実務経験を踏まえた講義を行うことにより、実践的な開発技術に関する能力の向上を図る。その他、実務的な視点から、プロジェクト管理やソフト開発を習得するために「情報職業論」を開講する。

3-3. 教員組織の変更内容

情報系 2 コースの現教員数は、入学定員 60 名に対し 18 名（学生 3.33 名/教員 1 名）である。入学定員を 70 名とした場合、学生数は 10 名増となる。前述の通り、理工学部では、令和 7 年度より、2 年進級時に自らの希望でコースを決定できる「データサイエンス応用オープンクラス」を新設し、令和 7 年度入学者に関しては、当該クラス 14 名のうち 11 名が情報系コースを希望し、配属された。令和 8 年度入学者に関しては、まだ配属は行われていないが、現時点では、13 名の入学者のうち 13 名が情報系コースを志望している。よって、合計で 20 名程度の学生増となる見込みである。

教員組織について、初めに理工学部理工学科における基幹教員として必要教員数は 24 名（教授 12 名）である。これに対して 2026 年 4 月 1 日現在の基幹教員数は学科全体で 90 名（教授 51）であり、必要教員数を十分に満たしている状態である。情報系 2 コースでは、学生 20 名の増員後も、これまでと同様にきめ細かな指導を行いつつ、より高度な情報教育・研究を実施していくために、新規教員 4 名を採用し、教員数を 22 名（学生 3.63 名/教員 1 名）にすることで、学生増員に対する組織体制の強化を行う。新規教員 4 名の採用により教育体制の充実化を図るとともに、「AI プログラミング言語」、「AI・データサイエンス実践演習 I・II」、「情報デザイン・I、II」、「創造デザイン I・II」、「空間情報構築基礎」、「XR 基礎」といった科目の開講によって教育内容の充実を行う。

新規教員 4 名のうち、2 名は知能情報コースに所属する教員を採用する。知能情報コースにおいて、AI・データサイエンス分野・量子ソフトウェア・セキュリティ・ソフトウェア工学分野の強化を推進するために、新規教員 2 名を配置する。新規教員 4 名のうち、他の 2 名はクリエイティブ情報コースに所属する教員を採用する。クリエイティブ情報コースでは、情報デザイン・XR 技術・情報可視化等の空間情報処理分野を中心に新規教員 2 名を採用する。4 名の新規教員を配置することにより、情報学における先端分野を重点的に強化し、従来よりも広範な分野を涵養する文理融合的な教育体制を構築する。

3-4. 施設・設備の変更内容

演習型科目の充実を図るために教育研究環境の拡充を進める。具体的には、端末室の整備を行い、学生が主体的に実践的な演習を行える環境を整える。現在、情報系 2 コースでは、演習科目及び学生実験用に端末室 2 部屋を維持・管理している。各端末室のコンピュータの台数は 72 台（合計 144 台）であるが、学生定員増加に対応した施設・設備環境を整えるために、各端末室で 92 台のコンピュータ（合計 184 台）を維持・管理する体制に強化する。さらに、データサイエンス・AI 分野の強化を目的として、GPU サーバーに接続された AI 演習用端末を 30 台程度整備する。これらの機器を同一ネットワーク上で動作させるために、ネットワーク機器（ネットワークスイッチ、ファイアウォール装置等）及び各種サーバー類（ファイルサーバ、ネットワークサービスサーバ等）を導入する。この他、教育用音響機器、教育用 AV 機器等の整備を同時に行う。端末室の整備により、AI・データサイエンス、量子ソフトウェア、セキュリティ、ソフトウェア工学などの情報学の基盤分野の学習だけでなく、先端的かつ高度な AI 技術の学習を可能にするとともに、情報デザイン、XR 技術、情報可視化などの空間情報処理分野に対応した教育環境を整備する。これにより、情報技術に関する深い知識とデザインスキルを併せ持ち、情報学全体を俯瞰できる人材の育成を通じて、社会のニーズに対応できる高度情報人材の養成を推進する。